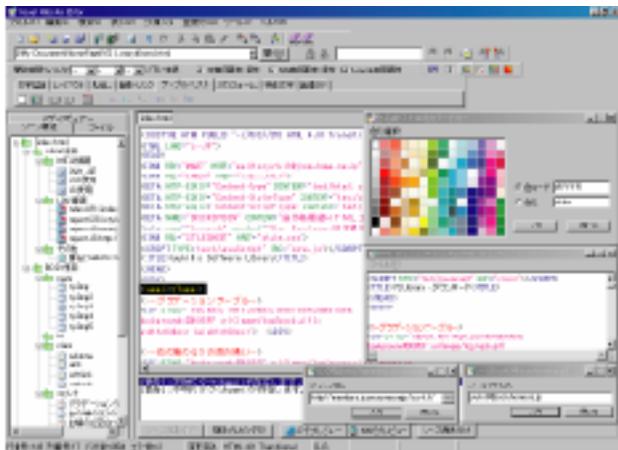


Visual Website Editor 2



所属：千葉県立国府台高等学校 普通科
氏名：中野 裕樹

プログラム開発環境
CPU：Pentium 4 (1.72Ghz)
OS：Windows XP/2000
メモリ：512MB ハードディスク：200GB

サクサク軽く動作する、簡易文法チェック機能、色分け機能つき、高機能MDI型HTML

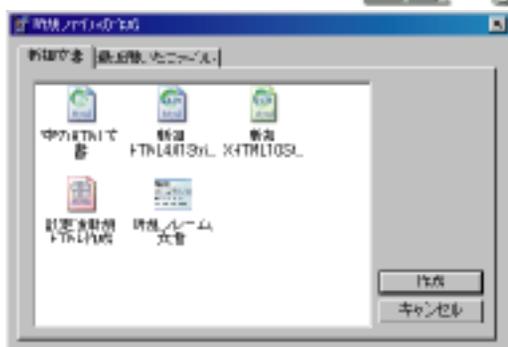
～作品の概要～

最近のウェブサイト上には優れたフリーウェアがとて増えてきているように思います。エディタの分野も例外ではなく、実に質の良いエディタが公開されています。しかし、“エディタ”分野の中の、“HTML専用”という面で見ると、数多くの“HTML専用エディタ”が公開されているものの、私が見た中ではまだまだ発展できる要素があると思いました。

様々な今まで公開されてきたHTMLエディタを調査・研究してみると多く見られるのがメモ帳を拡張したような、小規模なHTMLエディタでした。しかし、小規模なHTMLエディタでは、“現存するHTMLを含めたいろいろなファイルを編集できる万能型テキストエディタ”で十分であるのであまり意味をなさないのではないのでしょうか。

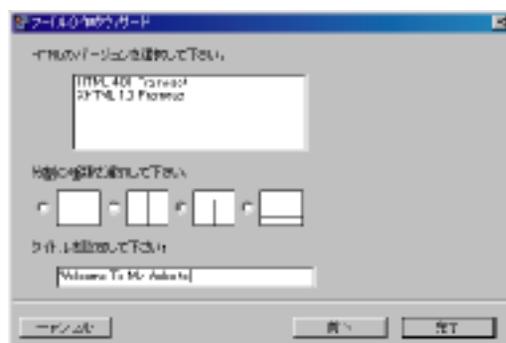
いろいろな角度から調査した結果から、中規模以上のHTML専門エディタであり、なおかつ出来るだけ軽いエディタであり、新しい発想が必要だと考え、この作品を作ろうと思いました。

～主な画面の解説～



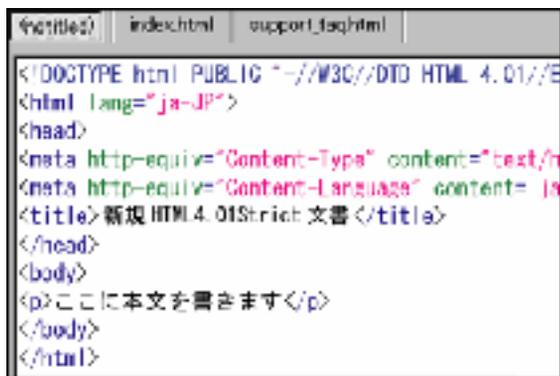
左図) 新規作成画面

新規作成画面から作成するHTMLのバージョンを選ぶ。また、フレームページや詳細設定をした後にHTMLを作成する場合は、(設定後新規HTML作成)を選択する。



右図) 新規フレーム文書

新規作成画面から新規フレーム文書を選んで作成ボタンを押すと、右図のようなウィザード画面が表示され、分割の種類を視覚的に選ぶ事が出来る。



左図) エディタ部分

新規作成時にHTMLのバージョンを指定すると、最低限必要なタグが自動的に入力済みの状態で編集が可能。タグは要素・属性が色分けされて表示される。色は環境設定で変更可能。

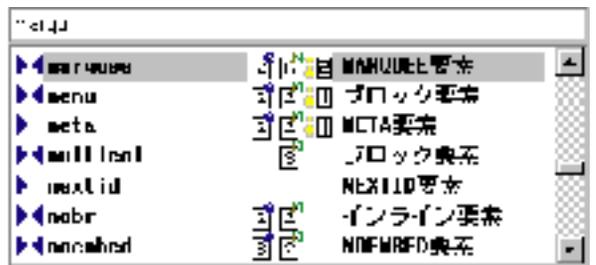
タブ切り替え型による複数ドキュメントの編集が可能。(MDI型エディタ)

この作品の最大のアピールポイントは、今までには無かったタグの入力補完時のバージョンフィルター機能と膨大な辞書データです。

この右図にある属性名・要素名の補完リストはプログラムと同じフォルダにある自作の辞典ファイルを元にリストに表示されます。

また、辞書ファイルのフォーマットも新たに製作しました。そのフォーマットは非常に分かりやすく、HTML新バージョンなどで新たに属性等が追加されても簡単にテキストエディターなどで追加する事が出来ます。

さらに、このリストには、その要素に存在しない属性は表示されません。また、バージョン制限をツールバーから設定する事で、そのバージョン以降の要素名や属性名を隠す事ができます。



～その他・機能詳細～



それらの機能のほかにも”タグ再編集機能”といった便利な機能も搭載しています。また、タグ入力において、単純に入力だけでは難しいイメージマップ等の入力支援機能を搭載しています。イメージマップの例でいうと、ドローソフトのように、範囲をガシガシとマウスで描いていくだけでリンクの範囲を作成する事ができます。

～作品の考察～

このプログラムの一番苦労した点は、他のエディタを越える機能を考える事です。少数派の優れているHTMLエディタは製作に2年かけているものなど量的にはとてもかなわないものばかりでした。それでもそれらのエディタを超えるためにかなりのスピードで製作し、なんとか他のエディタについている機能は付けることができました。しかし、他のエディタと同じでは意味がありませんので、さらに他のエディタを超えるために工夫をこなしました。他のエディタを超えるという事は、他のエディタについている機能はもちろんの事、他にはない機能をつけるか、またはそれを超える機能をつける必要があるため、とても考えました。

次に追加検討中の機能はプラグイン型の”タグ入力ツール”です。この機能があることにより、ユーザーが自由にタグ入力ツールを作り、Visual Website Editor2に組み込む事ができ、組み込んだプラグインを追加削除できるようになります。

今後の課題は、さらに機能を付けていくと言いたいところですが、現在のこのプログラムはあまりにも多くの機能を付けすぎて、使いこなすのが困難になってきているという問題があります。それを解決する事が最大のソフトの発展につながっていくと思います。具体的には、上級モードと初級モードに切り替える事ができるようにするなどの工夫が必要だと考えています。